発表番号　１５　　高松市立高松第一小学校

１　研究主題

互いに認め合い支え合う　自分づくり、なかまづくり、学級づくり、学校づくりを通した、自己有用感の育成

２　研究の具体

本校では、小学校と中学校が「高松第一学園」として、施設一体型で小中一貫教育を行っている。また、義務教育の９年間を一連の期間ととらえ従来の６・３制と、Ⅰ期（小１～小４）Ⅱ期（小５、小６、中１）Ⅲ期（中２、中３）による４・３・２制の双方でとらえ、互いの良さを生かしながら子どもの発達やその課題を踏まえ、適切な対応や支援を行っている。小中合同行事や交流等を効果的に実施しながら、すべての教育活動を通して、「きずなづくり」「なかまづくり」「居場所づくり」を推進し、児童が「明日も行きたくなる学校」を実現することを目指そうと考えた。

学校ワクワクプロジェクト（きずなづくり）

小中合同行事、小中の交流活動、期別集会で、学年を超えた縦のつながりを育む

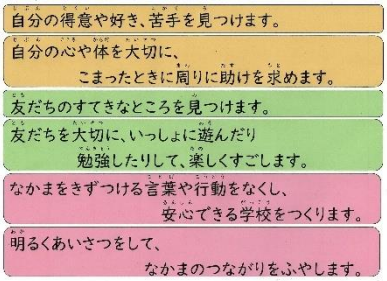
- ふたばサポートプロジェクト
- 運動会（応援合戦・児童生徒会種目・ふたばサポート隊）
- おそうじマイスター
- 絵本の読み聞かせ
- 期別集会・児童集会

４年生が中心となって行う期別集会の様子

学校いじめゼロプロジェクト（なかまづくり）

高松第一学園の校歌、学園人権宣言を意識化させ、なかま委員を核として横のつながりを育む

- いじめゼロ子どもサミット企画会に参加
- 高松第一学園なかま宣言
- なかま委員の効果的活用
- 「人権を考える学期」としての取り組み
- スマイルプロジェクト



各クラスに掲示している「なかま宣言」

学校にこにこプロジェクト（居場所づくり）

スクールカウンセラー（ＳＣ）等の効果的な活用で心の安定を図り、安心できる環境を作る

- ＳＣとの全員面談（５・６年生）
- ＳＣとの希望面談（３～６年生）
- ＳＯＳの出し方授業（３・４・５・６年生）
- 学校保健委員会
- 「聞かせてね」アンケートと担任による個別面談　（１～６年生）

SC による SOS の出し方授業

３　研究の検証及び改善の手立て

不登校児童の減少、児童アンケート「学校が楽しい」と回答する児童（昨年度 93.4%）の増加、学校風土アンケートの平均以上を目指す。

【成果】

- 欠席日数３０日以上の不登校傾向児童が昨年度よりも減少した。
- 昨年度、別室登校していた児童が学級に入り、大きな問題もなく過ごせている。
- ３年生以上の児童がスクールカウンセラーと面識をもつことで、面談したいと申し出た児童数が２倍近く増加している。また、カウンセリングを受けることにより、不安が縮小し、不登校の未然防止につながっている。

【課題】

- 不登校傾向児童は減っているが、昨年度から引き続き不登校の児童もおり、学校に来られていない児童へのアプローチを考える必要がある。
- 教職員が活動の価値を意識し、チーム学校として、今後も取り組みを継続、浸透させていく必要がある。